高津区区民生活に関わるニーズ調査

概 要 版

【久地円衛分水】

【溝口駅前】

【橘地区の農のある風景】

【橘樹官衙遺跡群】

調査の概要

■調 査 目 的　高津区の次年度以降の事業計画等において、区民ニーズ、必要性及び緊急性が高い課題等に対応する事業を効果的・重点的に実施するため、「区民がどのような施策・事業を執行してほしいと思っているのか」、「高津区で実施している施策・事業が区民にどのように評価されているか」等を調査・分析するために実施した。

■調 査 地 域　川崎市高津区全域

■調 査 対 象　川崎市高津区在住の満 18 歳以上の男女個人（外国人を含む。）

■標　本　数　2,000

■抽 出 方 法　令和６年９月末現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出

■調 査 方 法　郵送配布、郵送回収及びインターネット回答

■調 査 期 間　令和６年９月 17 日～９月 30 日

■調査委託機関　株式会社エスピー研

■回 収 結 果　有効回収数 706（有効回収率　35.3%）

■概要版の見方　この概要版の図中のｎとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。回答の比率（%）はｎを基数として算出し、小数点以下第２位を四捨五入して小数点以下第１位までを示した。従って、それぞれの回答の比率を足し上げた値とは異なる場合がある。

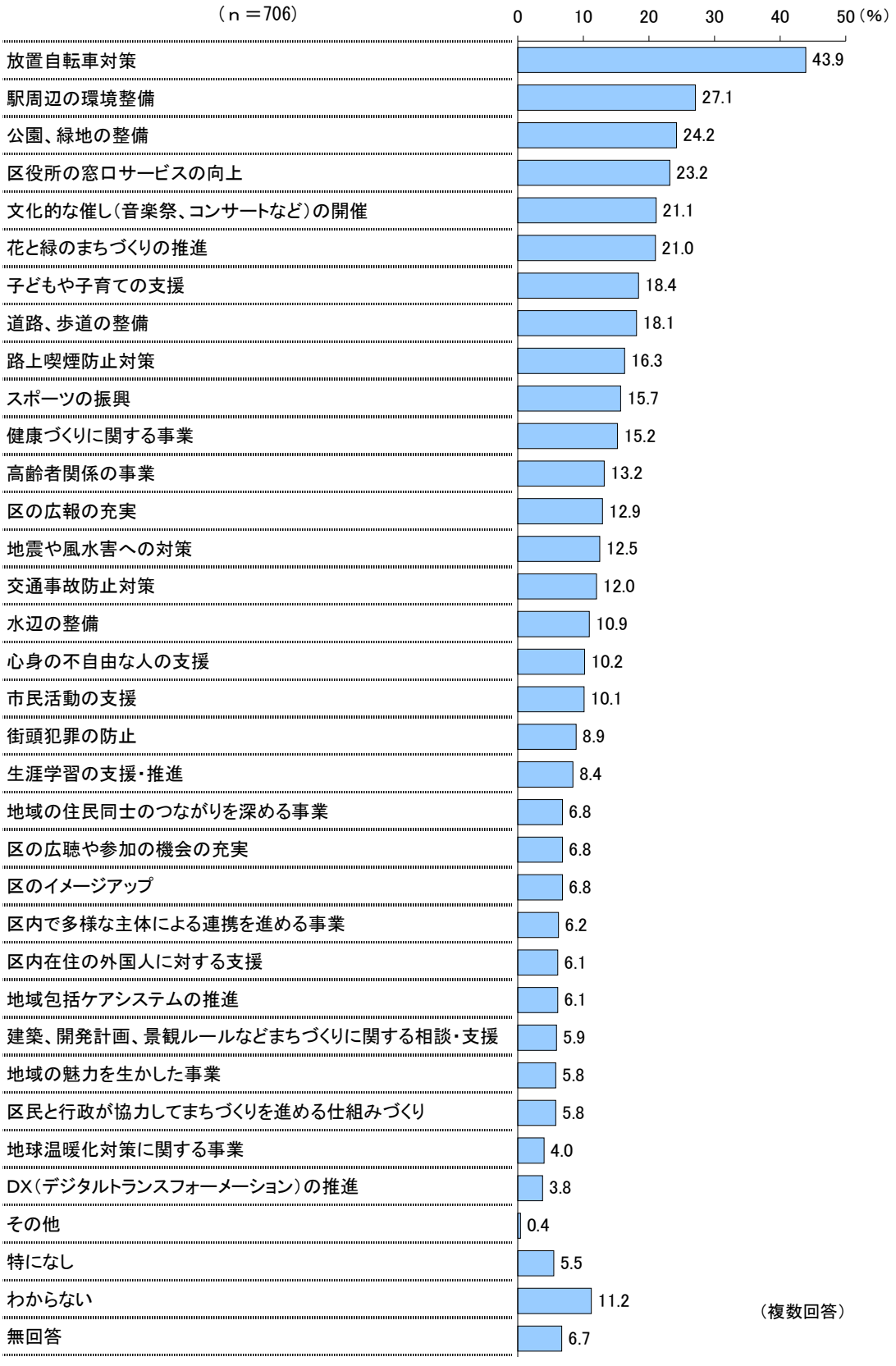
Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

高 津 区
川崎市高津区役所まちづくり推進部企画課
〒213-8570　川崎市高津区下作延２－８－１
TEL　044-861-3131

区の施策について

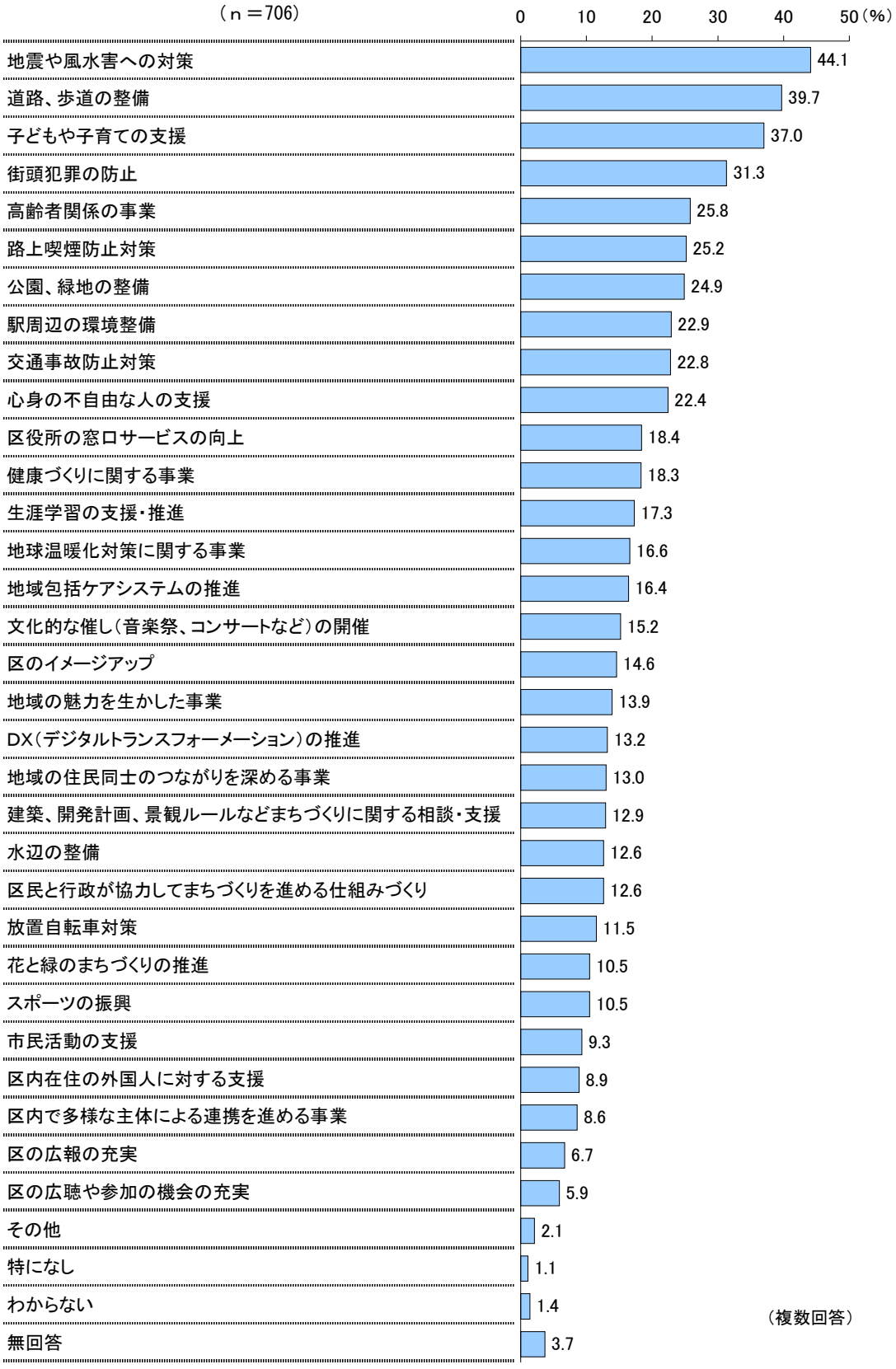
区役所業務の評価

評価をみると、「放置自転車対策」(43.9%)が４割を超えて最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(27.1%)、「公園、緑地の整備」(24.2%)、「区役所の窓口サービスの向上」(23.2%) となっている。(報告書P15)



区役所業務への要望

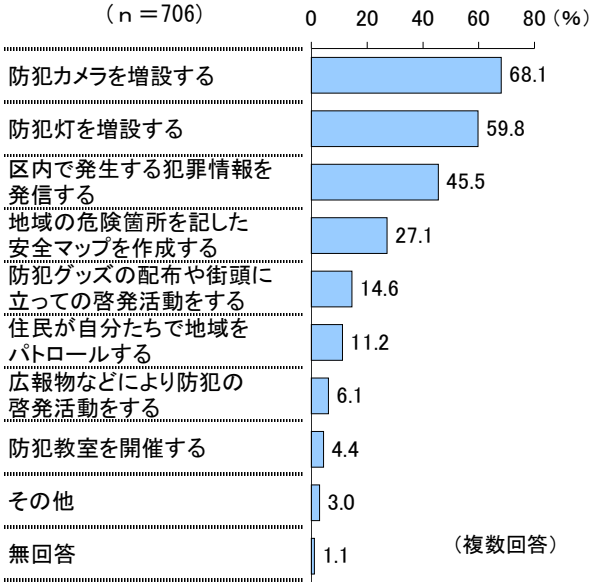
要望をみると、「地震や風水害への対策」（44.1%）が４割半ばで最も高く、次いで「道路、歩道の整備」（39.7%）、「子どもや子育ての支援」（37.0%）、「街頭犯罪の防止」（31.3%）となっている。（報告書P18）



区の施策の手法

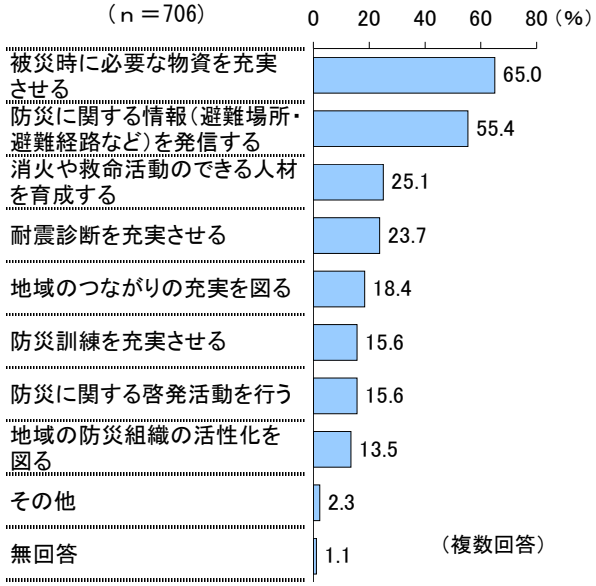
街の安全を守るための対策

「防犯カメラを増設する」(68.1%)が７割近くで最も高く、次いで「防犯灯を増設する」(59.8%)、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(45.5%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(27.1%)となっている。(報告書P24)



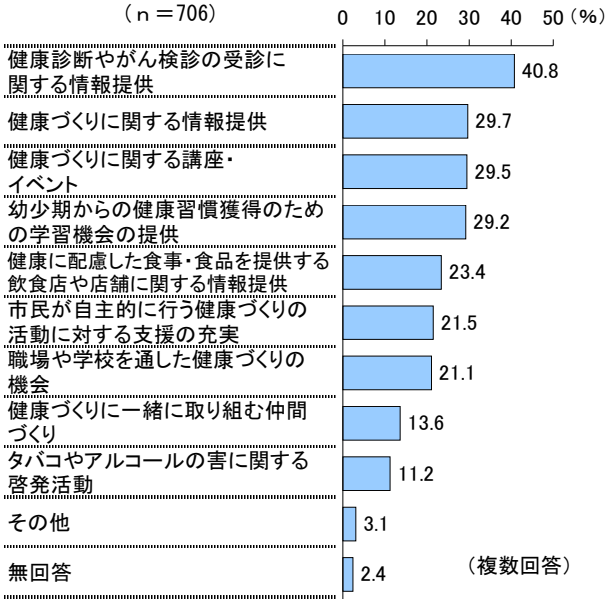
地震や風水害対策

「被災時に必要な物資を充実させる」(65.0%)が６割半ばで最も高く、次いで「防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する」(55.4%)、「消火や救命活動のできる人材を育成する」(25.1%)、「耐震診断を充実させる」(23.7%)となっている。(報告書P27)



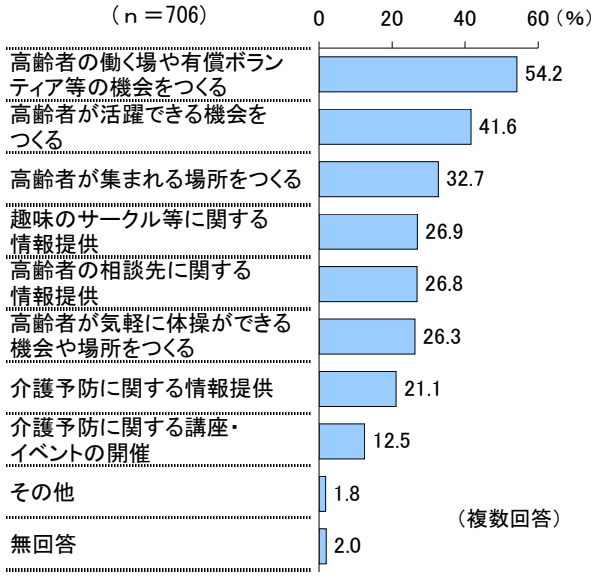
より健康になるために必要な支援や仕組み

「健康診断やがん検診の受診に関する情報提供」(40.8%)が約４割で最も高く、次いで「健康づくりに関する情報提供」(29.7%)、「健康づくりに関する講座・イベント」(29.5%)、「幼少期からの健康習慣獲得のための学習機会の提供」(29.2%)となっている。(報告書P31)



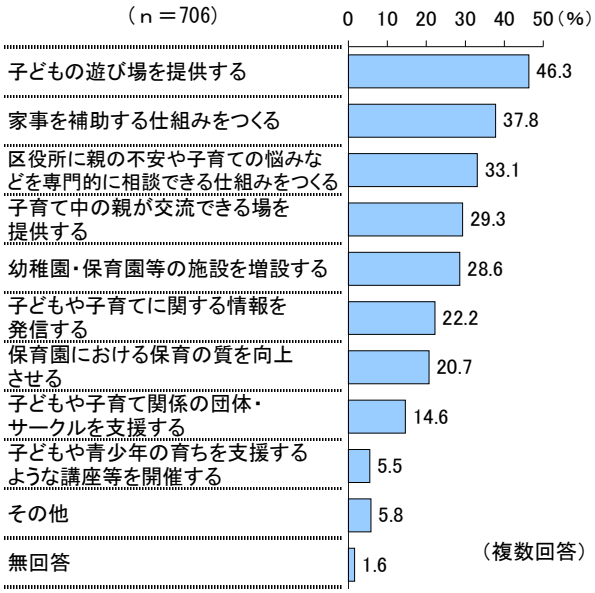
高齢者が生きがいを持って生活するために必要な支援や仕組み

「高齢者の働く場や有償ボランティア等の機会をつくる」(54.2%)が５割半ばで最も高く、次いで「高齢者が活躍できる機会をつくる」(41.6%)、「高齢者が集まれる場所をつくる」(32.7%)、「趣味のサークル等に関する情報提供」(26.9%)となっている。(報告書P34)



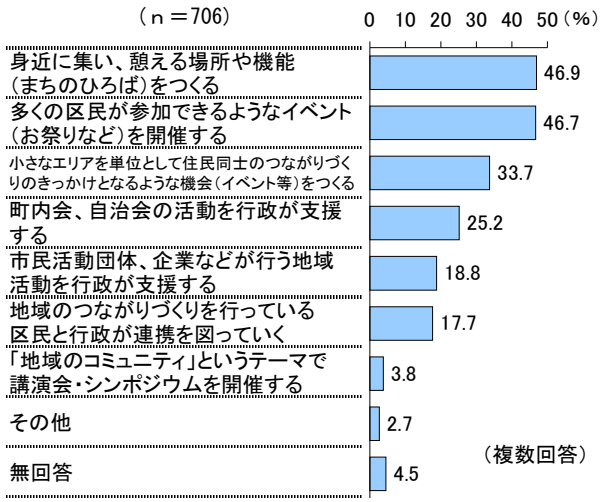
子育て支援

「子どもの遊び場を提供する」(46.3%) が４割半ばで最も高く、次いで「家事を補助する仕組みをつくる」(37.8%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みをつくる」(33.1%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(29.3%) となっている。(報告書P37)



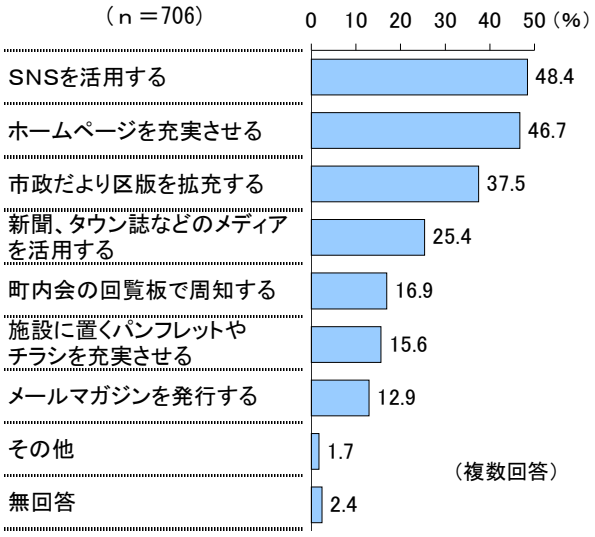
地域住民のつながりを深める手法

「身近に集い、憩える場所や機能(まちのひろば)をつくる」(46.9%) と「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」(46.7%) がともに５割近くで高く、次いで「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会(イベント等)をつくる」(33.7%)、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」(25.2%) となっている。(報告書P40)



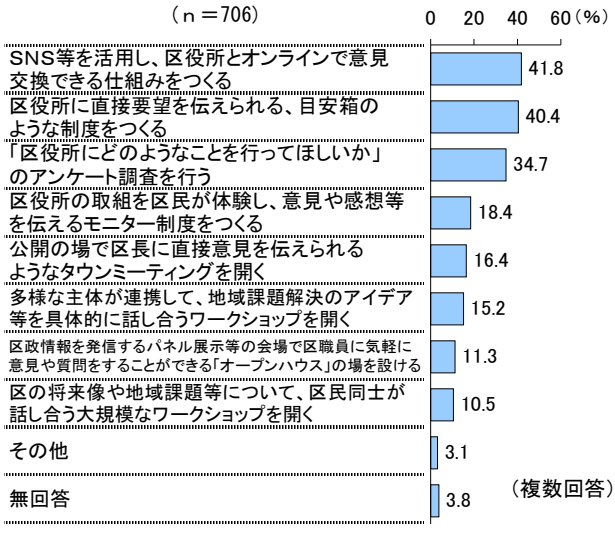
区の情報提供

「ＳＮＳを活用する」(48.4%) と「ホームページを充実させる」(46.7%) がともに５割近くで高く、次いで「市政だより区版を拡充する」(37.5%)、「新聞、タウン誌などのメディアを活用する」(25.4%) となっている。(報告書P46)



区民の意見を区政に反映するための手法

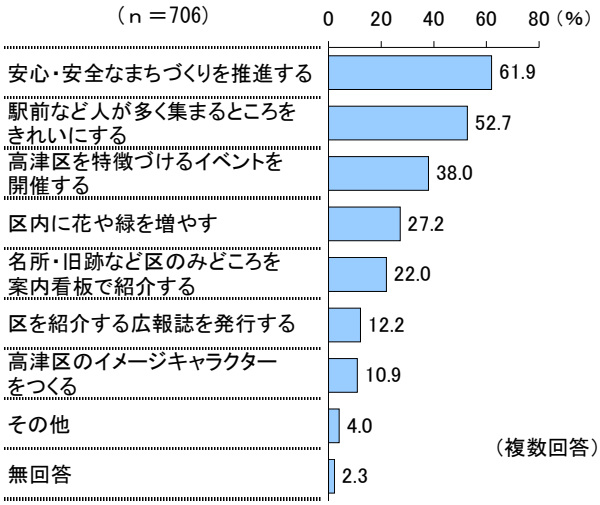
「ＳＮＳ等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる」(41.8%) が４割を超えて最も高く、次いで「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」(40.4%)、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」(34.7%)、「区役所の取組を区民が体験し、意見や感想等を伝えるモニター制度をつくる」(18.4%) となっている。(報告書P49)



区のイメージアップ

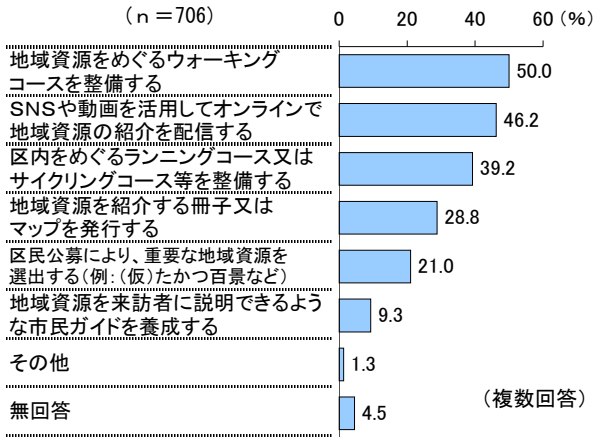
「安心・安全なまちづくりを推進する」(61.9%)が６割を超えて最も高く、次いで「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」(52.7%)、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(38.0%)、「区内に花や緑を増やす」(27.2%) となっている。

(報告書P56)



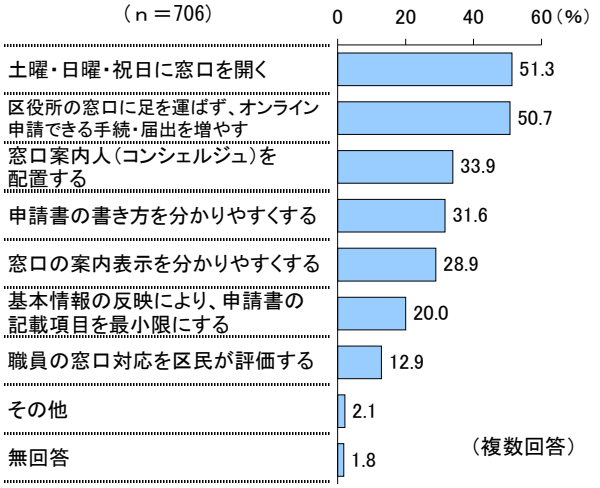
区の地域資源の魅力の効果的な発信

「地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する」(50.0%) が５割で最も高く、次いで「ＳＮＳや動画を活用してオンラインで地域資源の紹介を配信する」(46.2%)、「区内をめぐるランニングコース又はサイクリングコース等を整備する」(39.2%)、「地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する」(28.8%) となっている。(報告書P58)



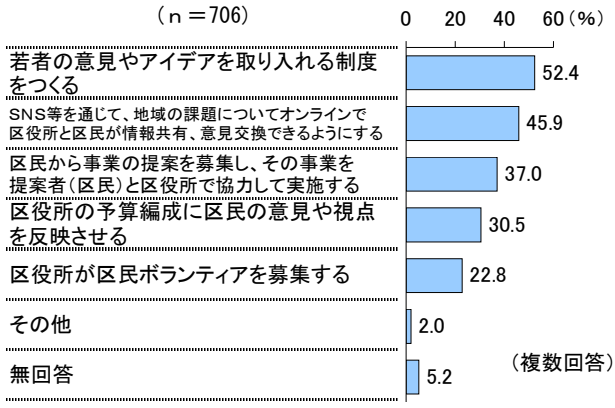
区役所の窓口サービス向上

「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」(51.3%) が５割を超えて最も高く、次いで「区役所の窓口に足を運ばず、オンライン申請できる手続・届出を増やす」(50.7%)、「窓口案内人（コンシェルジュ）を配置する」(33.9%)、「申請書の書き方を分かりやすくする」(31.6%) となっている。(報告書P60)



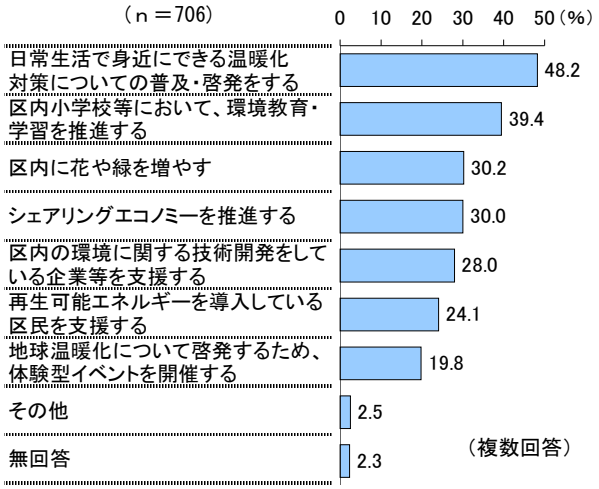
区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み

「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」(52.4%) が５割を超えて最も高く、次いで「ＳＮＳ等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」(45.9%)、「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者(区民)と区役所で協力して実施する」(37.0%)、「区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる」(30.5%) となっている。(報告書P63)



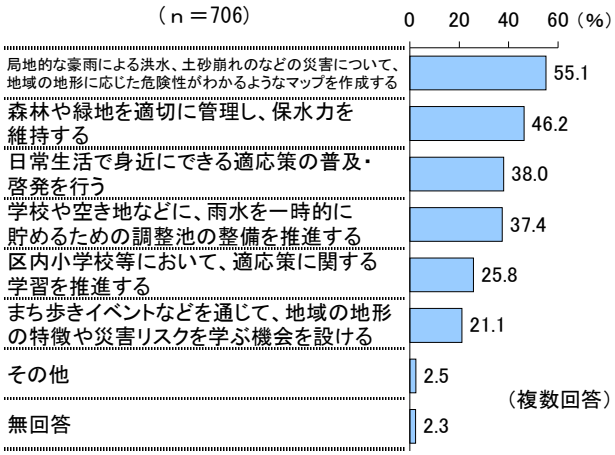
地域の地球温暖化緩和策

「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及･啓発をする」(48.2%)が５割近くで最も高く、次いで「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」（39.4%）、「区内に花や緑を増やす」（30.2%）、「シェアリングエコノミーを推進する」（30.0%）となっている。（報告書P66）



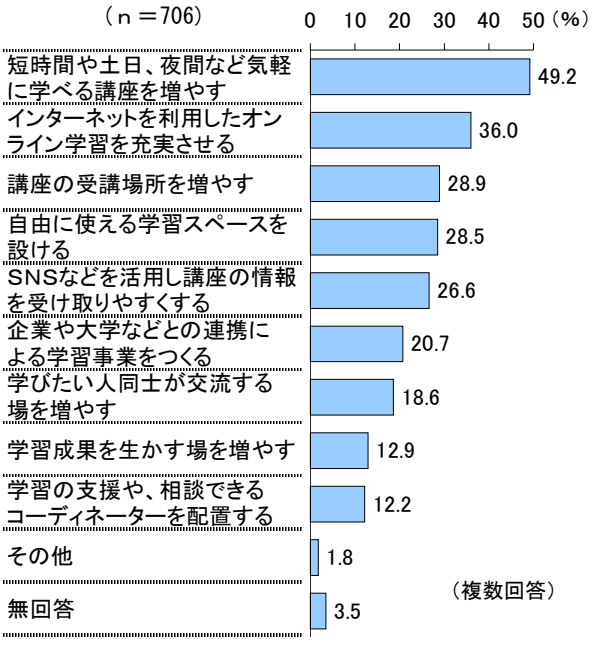
地球温暖化に伴う自然災害への適応策

「局地的な豪雨による洪水、土砂崩れなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する」(55.1%）が５割半ばで最も高く、次いで「森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する」(46.2%)、「日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う」(38.0%)、「学校や空き地などに、雨水を一時的に貯めるための調整池の整備を推進する」(37.4%）となっている。（報告書P68）



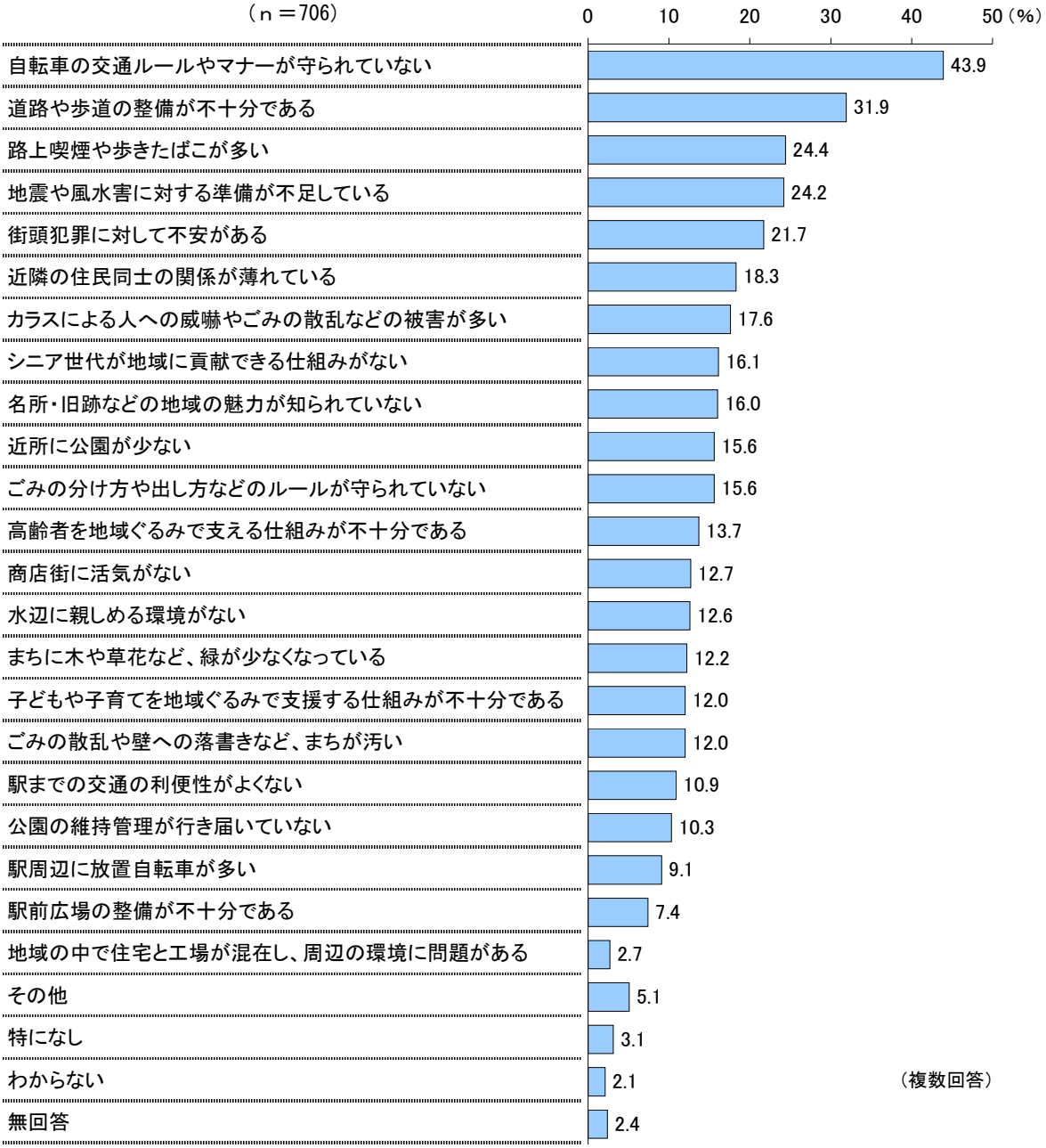
生涯学習を盛んにするための手法

「短時間や土日、夜間など気軽に学べる講座を増やす」(49.2%）が約５割で最も高く、次いで「インターネットを利用したオンライン学習を充実させる」（36.0%)、「講座の受講場所を増やす」(28.9%)、「自由に使える学習スペースを設ける」(28.5%）となっている。（報告書P72）



まちの課題・問題点

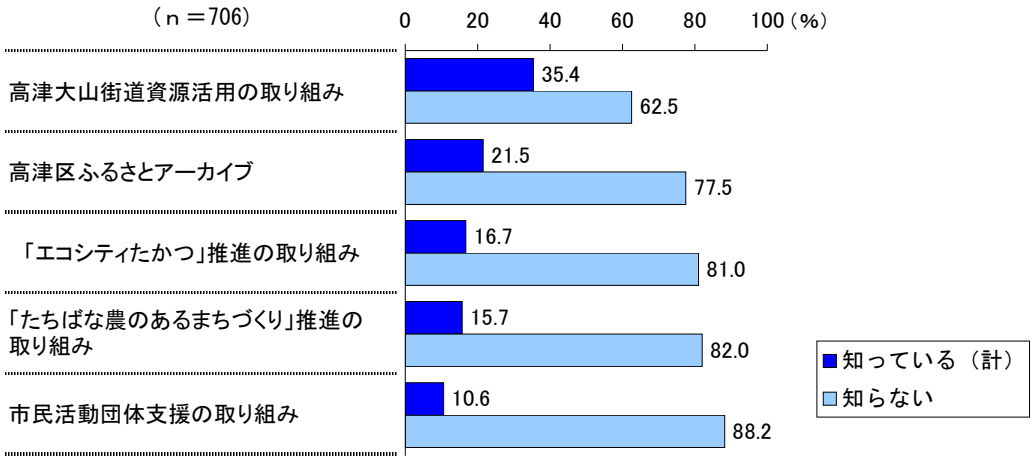
「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」（43.9%）が４割を超えて最も高く、次いで「道路や歩道の整備が不十分である」（31.9%）、「路上喫煙や歩きたばこが多い」（24.4%）、「地震や風水害に対する準備が不足している」（24.2%）となっている。（報告書P74）



区の取り組みについて

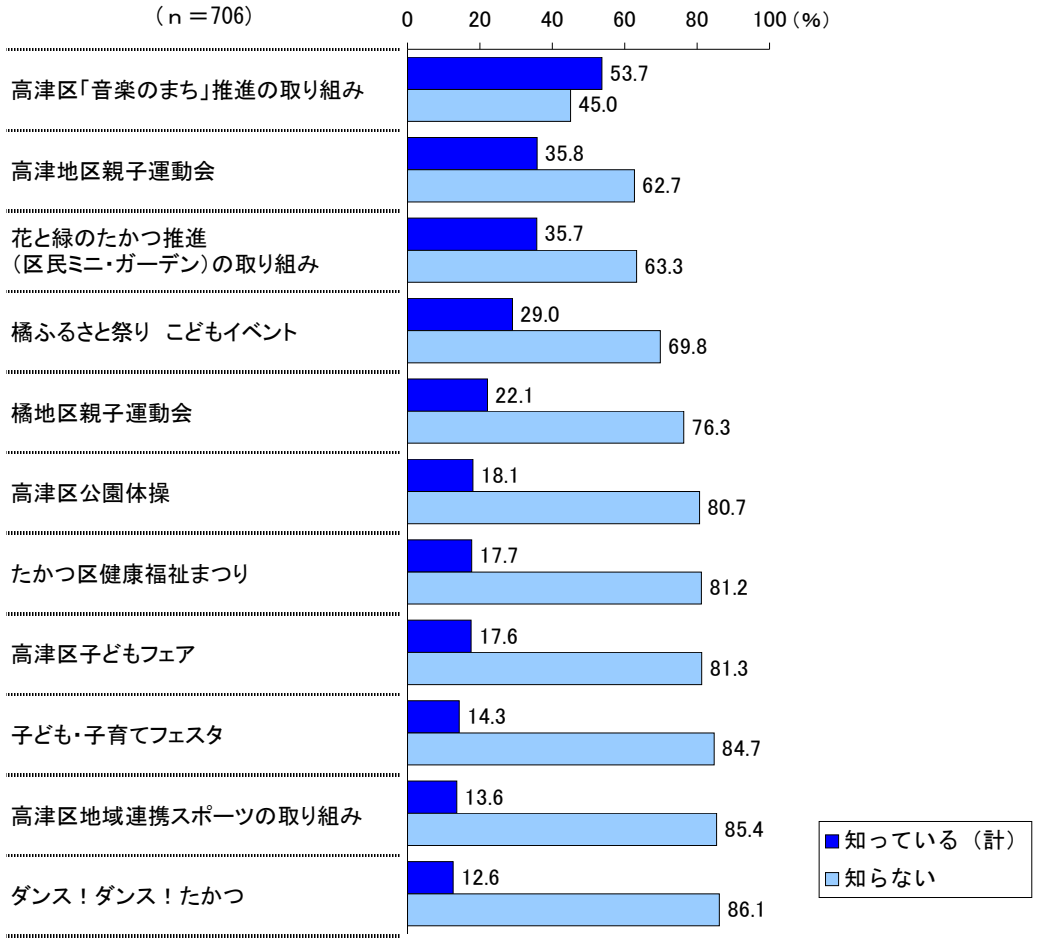
各取り組みの認知度

「内容まで知っている」と「聞いたことはある（あることは知っている）」を合わせた『知っている（計）』は、【高津大山街道資源活用の取り組み】が35.4%で最も高く、次いで【高津区ふるさとアーカイブ】が21.5%、【「エコシティたかつ」推進の取り組み】が16.7%となっている。（報告書P79～P80）



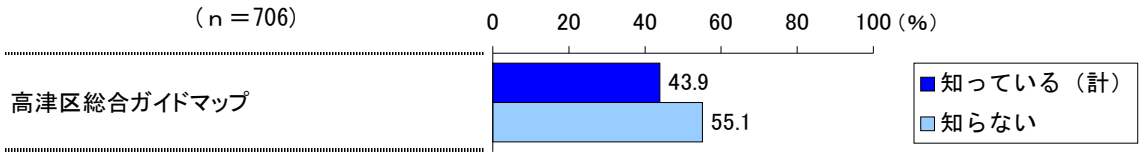
各取り組みへの参加状況

「参加したことがある」と「知っているが参加したことはない」を合わせた『知っている（計）』は、【高津区「音楽のまち」推進の取り組み】が53.7%で最も高く、次いで【高津地区親子運動会】が35.8%、【花と緑のたかつ推進（区民ミニ・ガーデン）の取り組み】が35.7%となっている。（報告書P86～P89）

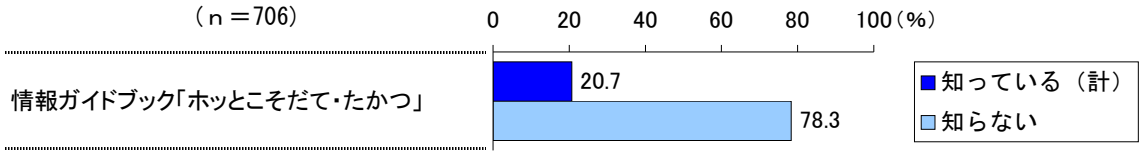


各広報媒体等の閲覧状況

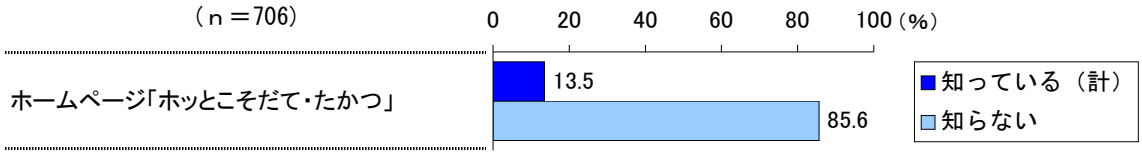
【高津区総合ガイドマップ】について、「読んだことがある」と「あることは知っている」を合わせた『知っている（計）』は43.9%となっている。（報告書P101）



【情報ガイドブック「ホッとこそだて・たかつ」】について、「読んだことがある」と「知っているが読んだことはない」を合わせた『知っている（計）』は20.7%となっている。（報告書P101）



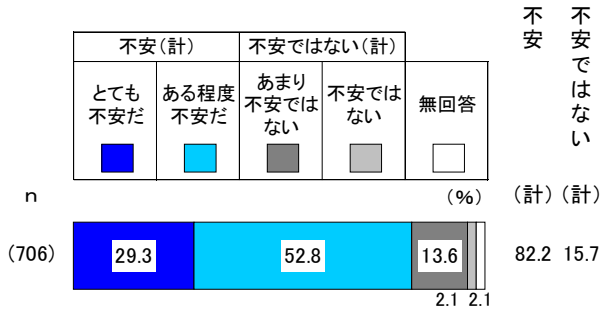
【ホームページ「ホッとこそだて・たかつ」】について、「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた『知っている（計）』は13.5%となっている。（報告書P101）



地域防災について

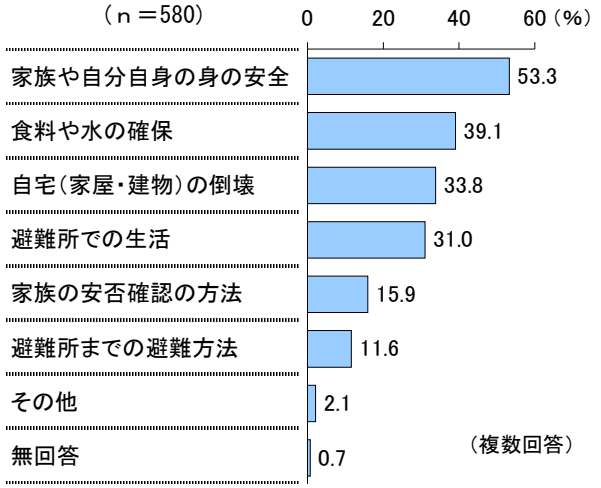
大規模地震発生時の「不安度」

「とても不安だ」（29.3%）と「ある程度不安だ」（52.8%）を合わせた『不安（計）』（82.2%）は８割を超えている。一方、「あまり不安ではない」（13.6%）と「不安ではない」（2.1%）を合わせた『不安ではない（計）』（15.7%）は１割半ばとなっている。（報告書P105）



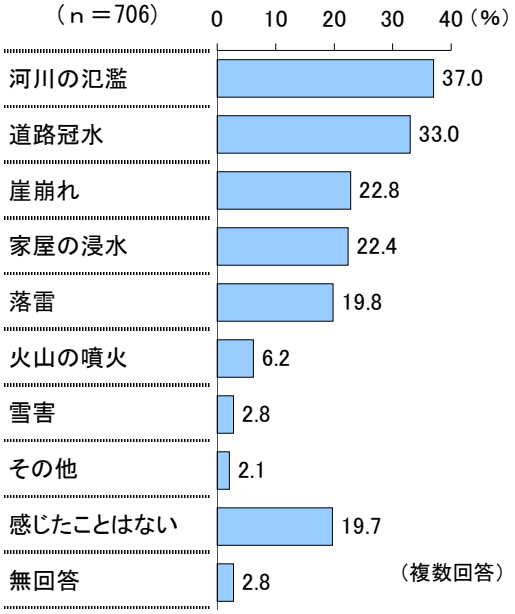
大規模地震発生時の「不安内容」

「家族や自分自身の身の安全」（53.3%）が５割を超えて最も高く、次いで「食料や水の確保」（39.1%）、「自宅（家屋・建物）の倒壊」（33.8%）、「避難所での生活」（31.0%）となっている。（報告書P110）



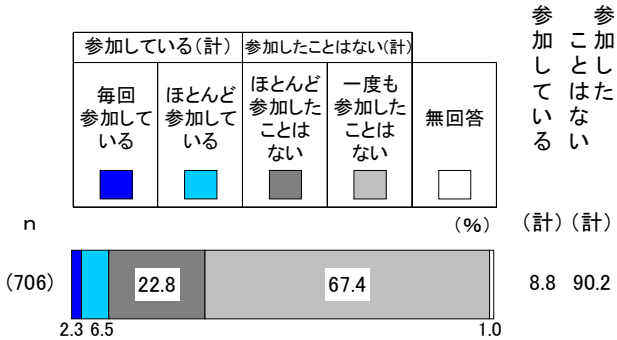
災害に対する不安

「河川の氾濫」（37.0%）が４割近くで最も高く、次いで「道路冠水」（33.0%）、「崖崩れ」（22.8%）、「家屋の浸水」（22.4%）となっている。一方、「感じたことはない」（19.7%）は２割となっている。（報告書P113）



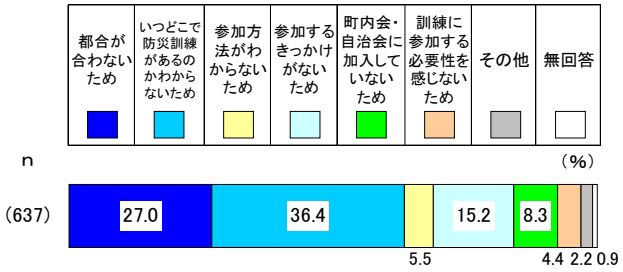
町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無

「毎回参加している」（2.3%）と「ほとんど参加している」（6.5%）を合わせた『参加している（計）』（8.8%）は１割未満となっている。一方、「ほとんど参加したことはない」（22.8%）と「一度も参加したことはない」（67.4%）を合わせた『参加したことはない（計）』（90.2%）は９割となっている。（報告書P117）



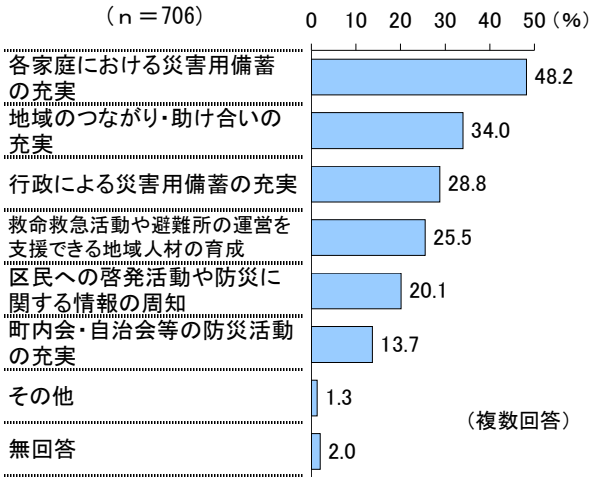
町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由

「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」（36.4%）が３割半ばで最も高く、次いで「都合が合わないため」(27.0%)、「参加するきっかけがないため」(15.2%)、「町内会・自治会に加入していないため」(8.3%）となっている。(報告書P122)



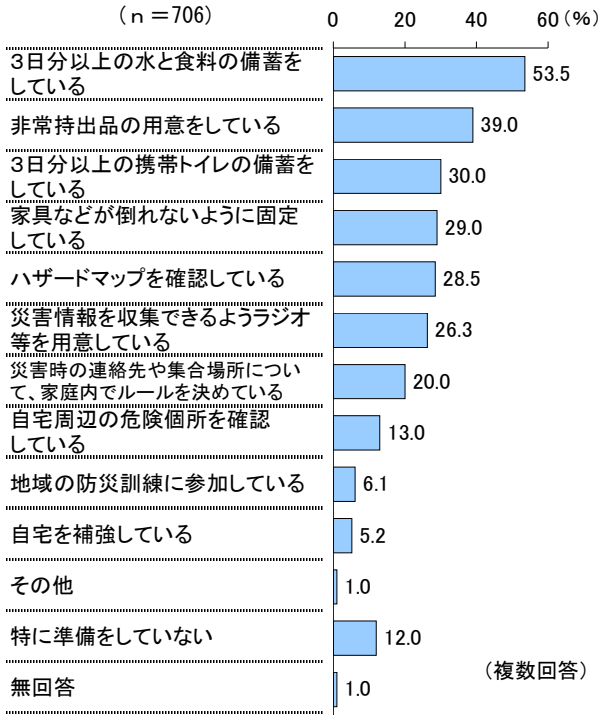
防災力を高めるために必要なこと

「各家庭における災害用備蓄の充実」(48.2%）が５割近くで最も高く、次いで「地域のつながり・助け合いの充実」(34.0%)、「行政による災害用備蓄の充実」(28.8%)、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」(25.5%）となっている。
(報告書P127)



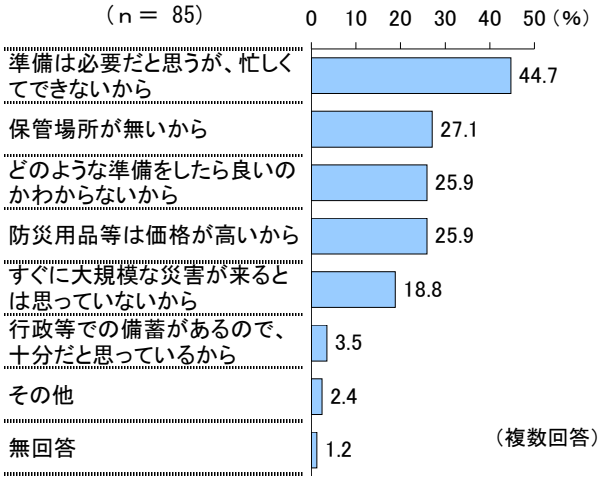
大規模災害発生への備え

「３日分以上の水と食料の備蓄をしている」（53.5%）が５割を超えて最も高く、次いで「非常持出品の用意をしている」(39.0%)、「３日分以上の携帯トイレの備蓄をしている」(30.0%)、「家具などが倒れないように固定している」(29.0%）となっている。(報告書P129)



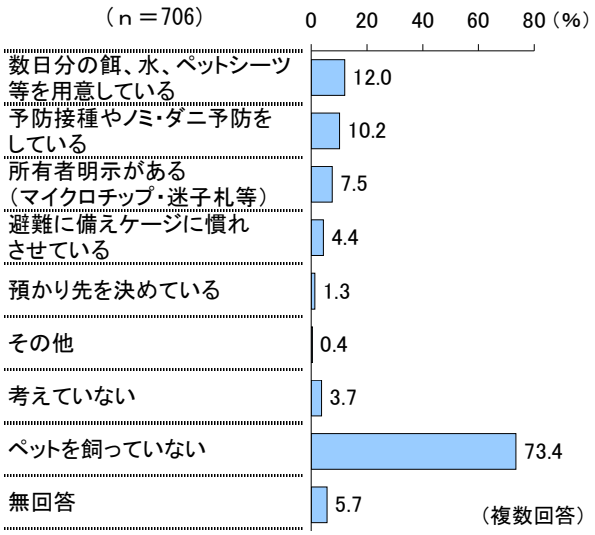
大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由

「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」（44.7%）が４割半ばで最も高く、次いで「保管場所が無いから」(27.1%)、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」と「防災用品等は価格が高いから」（ともに25.9%）となっている。
(報告書P133)



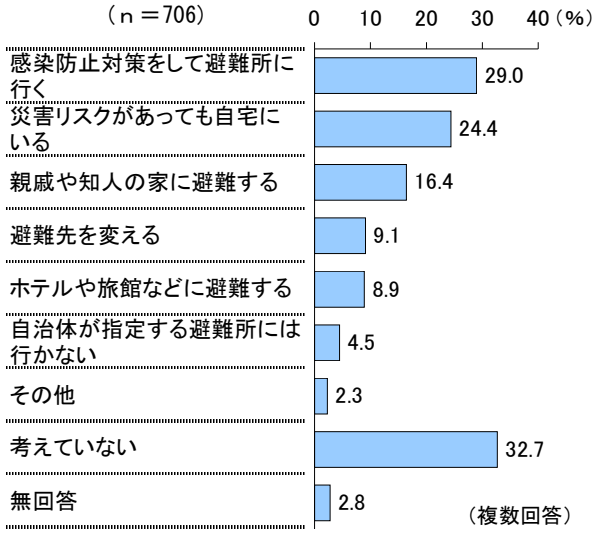
ペットの防災対策

「数日分の餌、水、ペットシーツ等を用意している」(12.0%) が１割を超えて最も高く、次いで「予防接種やノミ・ダニ予防をしている」(10.2%)、「所有者明示がある(マイクロチップ・迷子札等)」(7.5%) となっている。また、「ペットを飼っていない」(73.4%) は７割を超えている。(報告書P137)



避難方法について検討していること

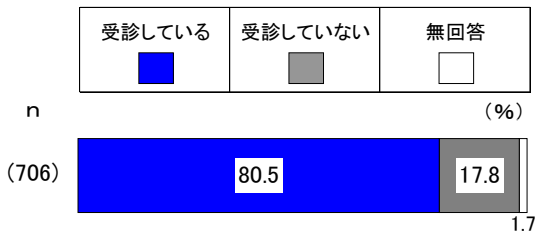
「感染防止対策をして避難所に行く」(29.0%) が約３割で最も高く、次いで「災害リスクがあっても自宅にいる」(24.4%)、「親戚や知人の家に避難する」(16.4%) となっている。一方、「考えていない」(32.7%) は３割を超えている。(報告書P139)



自身の健康について

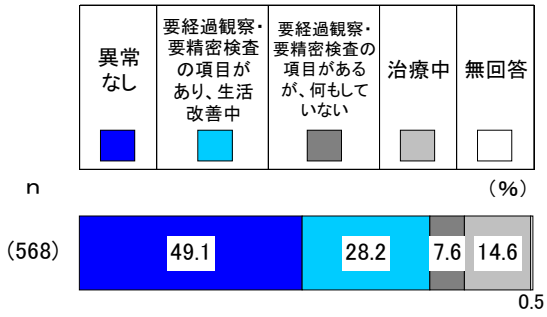
健康診断の受診状況

「受診している」(80.5%) が約８割、「受診していない」(17.8%) は２割近くとなっている。
(報告書P141)



健康診断後の対応

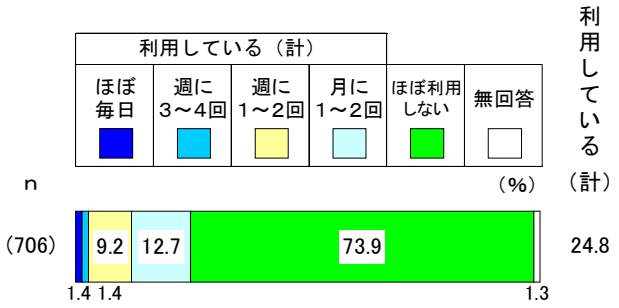
「異常なし」(49.1%) が約５割となっている。一方、異常がある中では、「要経過観察・要精密検査の項目があり、生活改善中」(28.2%) が３割近くで最も高く、次いで「治療中」(14.6%)、「要経過観察・要精密検査の項目があるが、何もしていない」(7.6%) となっている。(報告書P144)



公共施設や公共空間の整備について

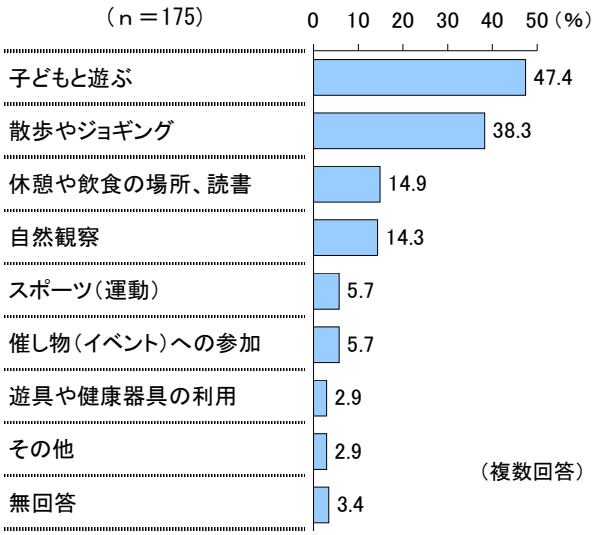
公園の利用頻度

「ほぼ毎日」（1.4%）、「週に３～４回」（1.4%）、「週に１～２回」(9.2%)、「月に１～２回」(12.7%)を合わせた『利用している（計)』（24.8%）は２割半ばとなっている。一方、「ほぼ利用しない」(73.9%)は７割を超えている。（報告書P148）



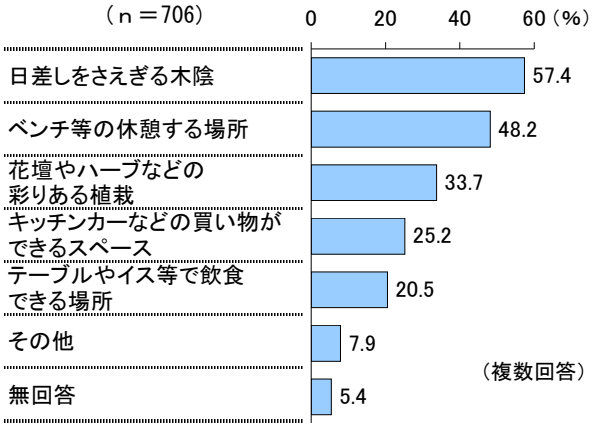
公園を訪れる目的

「子どもと遊ぶ」(47.4%)が５割近くで最も高く、次いで「散歩やジョギング」(38.3%)、「休憩や飲食の場所、読書」（14.9%)、「自然観察」（14.3%）となっている。（報告書P150）



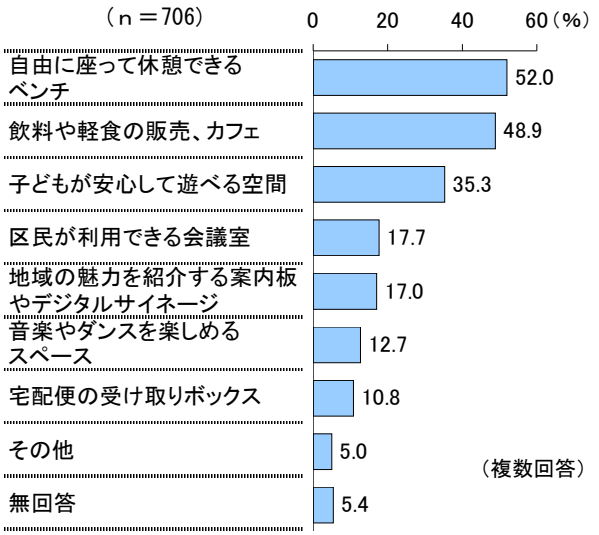
居心地の良い駅前広場づくりのために望む機能

「日差しをさえぎる木陰」(57.4%)が６割近くで最も高く、次いで「ベンチ等の休憩する場所」（48.2%)、「花壇やハーブなどの彩りある植栽」（33.7%)、「キッチンカーなどの買い物ができるスペース」（25.2%）となっている。（報告書P152）



区役所や出張所にあったらよいと思うもの

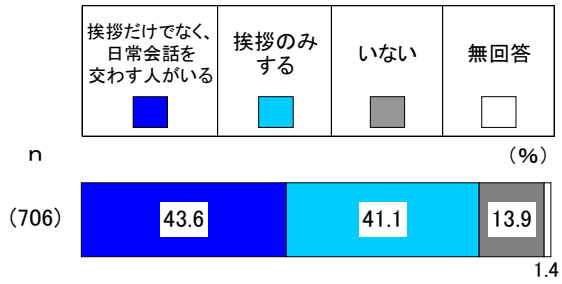
「自由に座って休憩できるベンチ」(52.0%)が５割を超えて最も高く、次いで「飲料や軽食の販売、カフェ」(48.9%)、「子どもが安心して遊べる空間」（35.3%)、「区民が利用できる会議室」(17.7%)となっている。（報告書P154）



地域におけるつながり・コミュニティについて

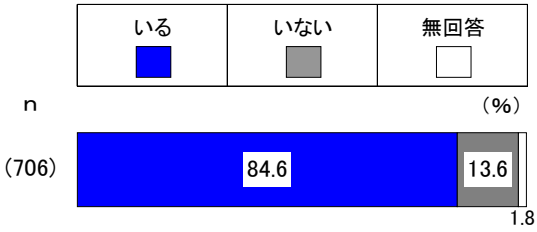
気軽に挨拶できる相手

「挨拶だけでなく、日常会話を交わす人がいる」（43.6%）と「挨拶のみする」（41.1%）がともに４割を超えている。一方、「いない」（13.9%）は１割を超えている。（報告書P156）



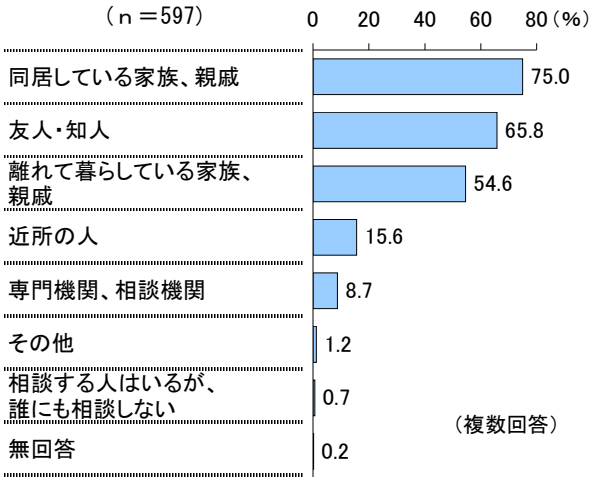
困ったときに相談できる人の有無

「いる」（84.6%）が８割半ば、「いない」（13.6%）は１割を超えている。（報告書P158）



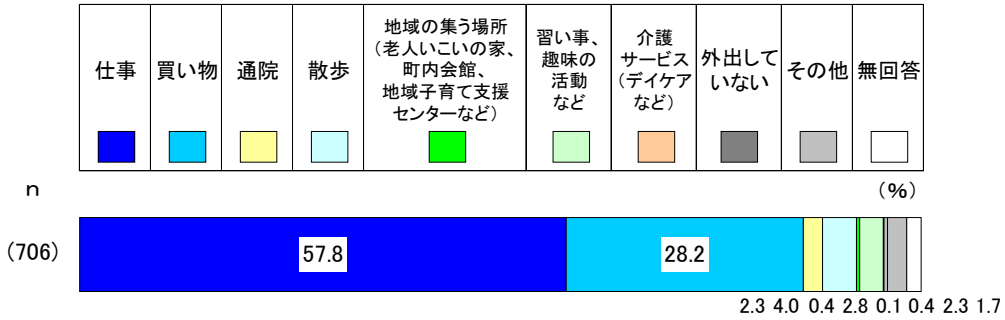
困ったときの相談相手

「同居している家族、親戚」（75.0%）が７割半ばで最も高く、次いで「友人・知人」（65.8%）、「離れて暮らしている家族、親戚」（54.6%）、「近所の人」（15.6%）となっている。（報告書P160）



直近１週間の外出状況

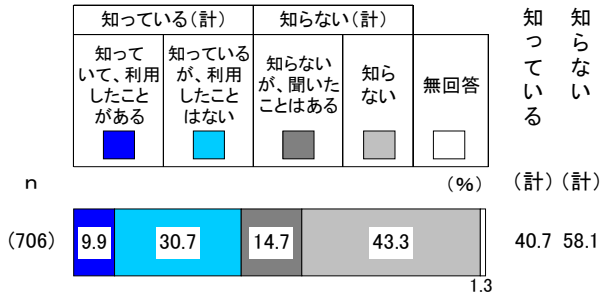
「仕事」（57.8%）が６割近くと最も高く、次いで「買い物」（28.2%）、「散歩」（4.0%）となっている。
（報告書P162）

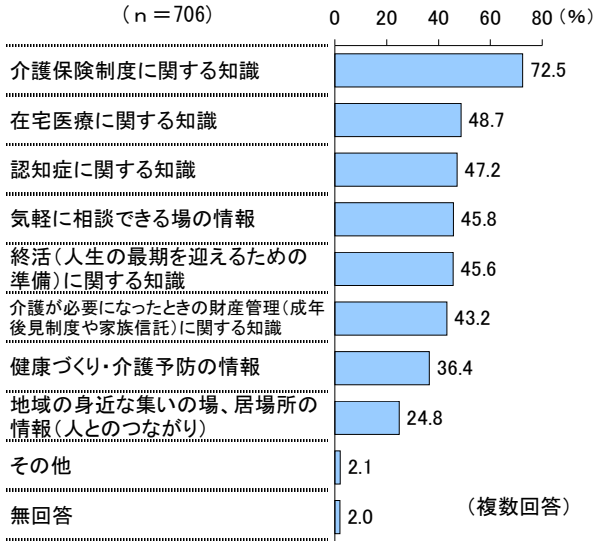


高齢者支援について

地域包括支援センターの認知度

「知っていて、利用したことがある」（9.9%）と「知っているが、利用したことはない」（30.7%）を合わせた『知っている（計）』（40.7%）は約４割となっている。一方、「知らないが、聞いたことはある」（14.7%）と「知らない」（43.3%）を合わせた『知らない（計）』（58.1%）は６割近くとなっている。
（報告書P166）



安心して暮らし続けるために必要な知識

「介護保険制度に関する知識」（72.5%）が７割を超えて最も高く、次いで「在宅医療に関する知識」（48.7%）、「認知症に関する知識」（47.2%）、「気軽に相談できる場の情報」（45.8%）となっている。
（報告書P168）